

平成28年度 まちづくり懇談会

玉川地区会場の要旨

平成28年10月18日（火） 19:00～21:00

玉川地区コミュニティセンター 参加者 101名

市長あいさつ

市長：みなさんこんばんは。今日は朝から暖かいいい日でした。明日も今日と同じくらいの陽気ということでございますので、農作業の方もずいぶんはかどるかなと思います。それにしても先ほどおいしいセロリをいただきましたけれども、長雨の影響で野菜が非常に高くなっています。主婦の皆さんは余計に身につまされると思いますけれども、一個500円のキャベツとか1000円のレタスなんかも出てくる、そんな状況だと聞いています。いろんな面で心配される状況でございます。さて本日は大変お忙しい中、平成28年度まちづくり懇談会にご出席いただきありがとうございます。今年のテーマは茅野市の未来予想図大いに語ろうということで、後ほど説明をさせていただき皆さんからいろんな意見をお聞きしたいと思います。玉川地区の皆さんには日頃より玉川のまちづくり、地域づくりにご尽力いただいておりますことに改めて感謝御礼申し上げます。今年は御柱ということで、玉川マルシェが中止ということで皆さんも残念な思いをしているんじゃないかなと思っているんですが、本当にいろんな形でまちづくりに取り組んでいただいております。ぜひこれからもそんなことをお願いしますし、来年の予算では今まで各運協に補助金がありますが、それとは別枠でがんばるコミュニティにはしっかり応援するという取り組みも考えています。こんなに金が来ても使い道がないなんてことは言わずにどんどんよこせというような活動をしていただければと思います。また今りんどうの花が飾られましたが、市の花、県の花でございますので、ぜひ愛着を持って取り組んでもらいたいと思いますし、市も毎年りんどうの季節になりますと、お世話になっているところにりんどうを100本とかいう単位で贈らせてもらっています。たとえば岡山県総社市にも100本送りますが、すべて役所にきた総社市の皆さんに1本ずつプレゼントしていて、あっという間になくなってしまおうそうです。そんな形でPRしてもらっていること、大変うれしく思います。今日は二時間という短い時間ですが有意義な時間になりたいと思います。よろしく願いいたします

玉川地区コミュニティ運営協議会会長あいさつ

玉川地区コミュニティ運営協議会会長：皆さんこんばんは。お疲れのところお集りいただきましてありがとうございます。玉川のコミュニティも運協を中心としていろんなことをやってきました。今日は未来予想図を描くということでございますので、今やっていることをどんな風に発展させていくかということを出し合いながら、夢を語っていきたいと思っていますし、今やっていることをぜひ玉川地区の皆さんで市長にアピールしていただきたいと思います。ぜひ有意義な会になりますようよろしくお願いいたします。

—テーマと資料の説明 内容は宮川地区を参照—

市長： 未来予想図をお示しいたしました。これは行政の方で考えたものですので、これが全てではございません。皆さんの思いをお聞かせ願えればと思います。特別このテーマというのではなくして、フリーに意見交換してまいりたいと思いますので、この資料に載っていることでも皆さんがお考えのことでもかまいません。

市民： 先ほど小中一貫の話や玉川小学校の評価の高い話を聞いて、玉川小学校卒業させていただいたことをありがたく感じます。こういう話を聞くと、地元の多くの子どもたちが玉川の小学校、中学校で育ってほしいなと強く感じます。そんな話のあとにゆいわくの話聞いて非常にいいと思いました。やっぱり協働ということで、市としてこういった活動をしていて素晴らしいなと思って、今年の玉川の運協でも小さからずともそんな活動をしていました。私は子育て部会の部会長をさせていただいております。ここで子育て部会の活動をさせていただければなと思います。なんの活動にしても指針となっているのは玉川地域福祉行動計画、いわゆる絆プランですが、これに基づいて子育て部会も目標を持って活動を始めました。その活動は市長の方でもありました人口減少ということで部会でも何かできることがあるのではないかとということで、子どもを産み育てたくなる玉川というのを目標にして活動を始めました。玉川で育ててよかった。あるいは第二子をとという活動をということで、じゃあ何をしたら玉川に魅力を感じてもらえるかなと考えたら、子育て中のお母さんが安心して子育てできる環境が大切なんじゃないかなと思い、去年からコミュニティ運営協議会と外の団体といかに連携をとっていかをずっと話してきたんですが、今年ご縁あって諏訪中央病院と連携がとれまして、ほろ酔い勉強会で一緒にコラボというか、共通の目的をもって講演会をさせていただきました。会場では高齢者向けのものから始まって多岐にわたる講演会をされているんですが、子育て部会の目標と共通のテーマでさせてもらえないですかということをお願いしたんですが、今の諏訪中央病院の先生はなんでこんなにコミュニケーションスキルとかトークがお上手で、小児科の先生、産婦人科とか多くの先生が参加されて、第一部は先生から講演、第二部は運協のパネラーと先生の合計6人でパネルディスカッションをした。非常にいい意見交換ができたなと思いました。最後に会場のお母さん方からの質疑応答で、病院の質問コーナーも作りました。そこで質問が出るかなと思いましたが、非常にお母さんから子どもが急に具合が悪くなったら急に診てもらってもいいですかというような、そんなことが実は心配なんですよ。そこで大丈夫ですよ、病院ですからいつでも来て下さいねというような暖かい声をかけていただいて、会場全体が安心感に包まれたなと感じます。テーマもオキシトシンという幸せホルモンをいかに分泌させるかというテーマでしたので、その言葉を借りれば会場全体がオキシトシンに包まれているような会ができたかなと思います。開催させていただいた私たちの立場からすると先生と会話のキャッチボールができて、成果を持って帰られている。アンケートでも子育てで悩ん

でいるけれど、茅野市で頑張っって育てたいなという話もありました。これからコミュニティと中央病院さんも企業だと思ひますけど、協働の重要さは、いいまちづくりには不可欠だとなつづく感じました。玉川ではこんなことをやっていますということで報告ですけれども、またあとでなぜこんなことができてゐるかと、今後より継続して推進していくことのご提案を、後ほどお時間をいただければと思ひます。これに関してはいろいろ活躍されている方がいるのでご発言していただければと思ひます。

市長： ありがとうございます。本当に心温まる話をいただきました。中央病院もいろいろなことを考えています。地域医療を全うしていかなければいけないということでいい勉強会を企画してくれました。そんな話があったと病院に伝えたいと思ひます。子どもを産み育てたくなる玉川はちょっといいづらゐから、子どもを産むなら玉川、育てるなら玉川みたいな方がいいかなと。私の勝手な意見ですが、中央病院もベビーフレンドリーホスピタルというどの病院も取っているものではない、子どもに優しい病院ということで一つの売りにするとか、取り組んでいます。中央病院から南、山梨県も含めて甲府まで産婦人科がないんですよ。だから山梨からも来てくれている。高原病院にも産科の先生は応援に行ってくれている。いいところをしっかりと伸ばせと、先生たちも中央病院が子どもを産みたくなる病院を目指しています。たとえば患者の皆さんからは、妊婦さんは病人じゃないんですよ。だから外来のところを通過して産婦人科に行くのは抵抗があると。そうじゃなくて別の入口を作って行けるようにしたらどうかという意見をいただいて、確かにそうだなと。妊婦さんは体調管理もデリケートでしょうし、なるべく病人のところを通らずにいたらいいよなと検討しております。皆さんからの意見をいただけたらと思ひます。未来予想図に落とし込めれば10年後は子どもがたくさんゐる玉川。お産をたくさんする中央病院という絵が描けるかなと思ひます。

市民： 先ほど小中一貫の話がありましたので玉川小学校の子どもたちの話を少しさせていただければと思ひます。これまで教師主導型の教育をしてきたなと反省しています。正しい知識だけを大事にしようと授業を進めると、出てくる言葉が違ふでしょ、教えたとおりにちゃんとやりなさいと。そのうちに何々ちゃんはちゃんとできているよと比べられてしまう。そこでなかなか難しい取組の中で、玉川小学校では一年生の教室をのぞかせていただくと、算数の授業で、机の縦横の長さを比べるとき、2人の子どもがこんな会話をしていました。Aちゃんは手でいくつ分とやっていたんですが、手は大きさが人によって違ふから比べるときにはまずいよね。だから算数のブロックを持ってきてやろうかと並べ始めます。でも二人持っているブロックだと足りないんです。そこで隣の2人に声をかけて借りるんです。今度は4人で並べると19個と29個で横の方が長いねと、こんな風にやっているんです。低学年のうちにペアの活動をしていくことで楽しさもあり、隣の子に声をかけて考えるということで仲間と一緒に学ぶ楽しさを感じる。学び合ひの土壌を作っているのかなと感じられました。6年生では、比の値の問題で、五分の四対三分の二という問題で、Aさんはこれどうやってやるの、とBさんに声をかけます。

Bさんは分母が15になるでしょ、分子が12と10で6対5だからと、声をかけます。するとAさんはわからないよと言います。途中がわからないんだね、分母は5に3をかけて、3には5をかけて15にしてと、話をすると、Aさんは思いだしてきたぞと言って、どんどん問題を解いていきます。すごい違いです。Bさんに教えてくれる？と声をかけたAさん、それに丁寧に答えたBさん。相手意識を大切にして学び合っている姿がありました。私たちはこんな学び合いの姿をもっと子どもたちの中に作っていききたいなと思います。自ら学び高め合い、共に豊かな学びを作る教室を作っていけたらと思います。地域の皆さんのお力をいただきながら学校づくりをしていきたいなと。先生も子どもたちも本当に頑張っています。今日は若い職員も来ていますので感じるものがあればと思います。

市民： いろいろお話がありましたが、拙い授業ですが、子どもたちは一生懸命聞いてくれていて、自分たちも学習の中で楽しさを作ろうとしていて、先月運動会では組み体操があり、職員の想いを受け止めて応えようと一生懸命やっていて一回だけの発表の場に本気で取り組んでいるなと思います。待つ立ち姿勢、額に汗を浮かべていますが、我慢して立っている姿を見て職員も感じるものがありました。言われたことを一生懸命やっている以外にも自分たちで演技構成でやらないかと投げかけると、やりたいと希望してくれて自分たちで作り上げたいという子どもたちがたくさんいて、主体的にやっている姿が育っているなと思いました。学習全般にも育っているなと思います。その力が付いているなと思いますので中学校でも活かしてつなげていきたいなと思います。

市長： ありがとうございます。先生もこれだけの地域の皆さんの前でおしゃべりする機会もなかなかないでしょうから、いい話を聞かせていただきました。運動会の組み体操ってどこの運動でも感激しますよね。私もつい涙もろくなりますので、素晴らしいなと思います。ありがとうございました。

市民： 今玉川地区の社協の中で取り組んでいることで、今年の4月から絆プランに基づいているわけですが、元気で楽しく暮らす玉川というテーマがあるわけですが、元気な高齢者をつくらうというのを目標にして進めているところです。また高齢者だけでなく若い世代から、元気で最後は家族に迷惑をかけずに逝けたらいいだろうなと考える中で、東部保健福祉サービスセンターの職員の方、コミュニティの方、社協の方と意見交換を盛り上げていって、この活動を玉川だけでなく茅野市全体に広がっていったら、茅野市の医療費もだいぶ削減していけるんじゃないかなと。そんなことも考える中で活動をしています。ぜひ地域の中で活動をする中で、社協自体が地域に根付いていないと思いますので、この機会に玉川にも社協があって、こういう活動をしているんだと知らせていきたいなと思っています。市の方でもよろしく願います。

市長：ありがとうございます。本当に元気でびんびんころりなら最高だと思いますし、ぜひこの取組を玉川でしっかり根付かせていただいて、市に広げていただければと思います。保健指導員さんがいますよね、各区、自治会に。高齢者に限らず住民が元気で過ごすことを願って活躍されていますので、そんな方とのコラボもいいかなと思いますし、サービスセンターの職員は親身になってお願いしたいと思います。またゆいわーくでも、つながる拠点にはなりますが活動はそれぞれのフィールドだと思いますので、今こんなことをしているんだけど、もっといいことはないかと、ゆいわーくで相談していただければと思います。今こんなことを目指しているんだったらこんな団体とやったらいいということもお知らせさせていただけたらと思います。今高齢者の方は割と元気だなと思います。むしろ私たちの世代の方が疲れているんじゃないかなともあります。余談ですが、今まで3地区でまち懇が終わりましたが、アンケートの中であなたは10年後の茅野市の未来に、現在と比べて希望が持てるかという問いがあり、持てるという方が15%、どちらかといえば持てるという方が37%、たすと52%がプラス思考。どちらかと言えば持てないが21%、持てないが3%でたすと24%。わからないが21%なのですが、持てるという方で一番回答が多かったのは60代の方が一番多いんですね。出席者が多いということもあるでしょうが、持てないという方も60代が多いんですが、特徴的なのは30代の方が持てるよりも持てないというのが、わずかですが多い。30代って子育て世代で、これから大学にやってという中で不安を持っていらっしゃるというのがありました。10地区やってどういう結果になるか楽しみと言いますか、大事なことだと思います。高齢者の方、元気です。さらに玉川の先輩方には元気になっていただきたいと思います。

市民：教育環境の整備ということで、私が言いたいのは教育資料のことです。この前、穴山学校の資料があって、穴山学校以外にも学校があったわけですが、穴山は幸いに蔵の中に350点の資料。100冊以上の当時の教科書があります。それでこれは保存はいいんですが、これを利用することを考える必要があると思ひまして、それを利用するためには区長さんをお願いして大変なことをしていただいて、いろいろ言ってもいい方ばかりで、嫌な顔せず運んでくれたり収納いただいたわけです。それで明治6年からの資料ですが、自分たちのおじいさんがどんな勉強してきたか、どんな成績だったかもわかるわけですが、その他、先生方に見ていただきたいのは、当時の先生が授業の案を出している。そして当時から歴史関係の資料の中で、縄文教育を先ほどからあるわけですが、縄文時代のこと書いてあります。特にお願いしたいのは尖石遺跡を考えるとときに発掘された宮坂先生は、当時の歴史教育において天照大御神などのこともずっと書いている中で、発掘しながら将来歴史の教科書にも出てくる内容になるだろうと思って、先生方にはそういう観点から宮坂先生の業績を問題にしていっていただきたいと思ひます。そういうわけで利用するための施設ですね。茅野市全体の昔の学校はみんなそうだと思いますが利用する必要があるんじゃないかと。高島小学校には外にそういうところがあって利用できるわけですね。ですから茅野市でも利用できる施設設備を作っていただきたいと思ひます。先日教育委員会にも資料を持っていきまして、資料のことをどれだけ把握しているか聞

いたところ全くつかんでいなかった。その資料は各区長さんが管理しているということもあるかと思いますが、穴山学校の資料も持って行ったんですが受け取ってもらえなかったんです。茅野市の教育委員会はこの程度のものかと思って帰ってきたんですが、今後市の教育計画もありますし、あと7年経つと玉川小学校の150周年ですね。なんとかそれまででもいいですけども、できるだけその資料を利用できるように、歴史教育を縄文から始まって。またゆいわーくでも役立ててもらいたいと思うんですね。小学校を作る場合でも、コミュニティ建て替えのときでもいいですがお願いします。

もうひとつ東部中学校にいったときに、子どもたちが新聞を作って発表していましたが、はっきり間違っているものがあつたんですね。たとえば法隆寺が607年に作ってずっと続いているからすごいとかとんでもない間違いで、670年以降に再建ですね。その他いくつかあつて、先生方にはしっかり見てもらいたいと思いますのでお願いします。

教育長： 今茅野市の中で昔の学校の資料が出版されたり残ったりしているもので見やすいのが玉川小学校の島木赤彦の関係。それから下古田の寺子屋の資料。長野県の国語教育史というような本に載っているんですが、それ以外はあまり分からない。高島小の文献庫は改築のときにかなりのお金をかけて建てたんです。あの文献庫を建てた時に、授業を早めに終わらせて文献庫に籠っていました楽しくて。ぜひ当時の穴山学校から始まってなんとか管理して利用できるように、お金の問題はありますが考えていきたいと思います。今やらないと後続いていかないと思います。玉川の場合、玉川村史というのがないですよ。いろいろな話を聞くとすごいものが残っている。私自身それを大切にしていきたいと思います。ぜひまたご意見をいただきながら今できる最善の方法を考えていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

市長： まあ後段のことは先生も人ですから間違いもあろうかと思いますが、やっぱり教育の立場ではキチンとした表示をしていかなければいけないと思います。そういう目で見ると博物館も間違っているんですよ。私は地理が好きなのでこの川は絶対弓振川じゃないよと言うと一週間後に市長の指摘のとおりでしたと、そんなこともあります。やっぱり教育施設等ではキチンとしていかなければと思います。

他にどうですか。最初の子どもを産み育てたくなる玉川の取組についてまだ提言があるということでお聞きしたいと思います。

市民： これは市長へのお願いと皆さんへのご提案でもあるんですけど、コミュニティセンターの所長さんの任期について、どのくらいか決められているかというのが一つと、今まであまり長くない任期を長期化してもらいたいというのが率直な意見で、先程社協の会長さんの話にもありましたけれど、何かをするときには絆プランでやっているつもりです。先ほどお見せしたパネルを各区に置こうというのも所長からの提案でして、このプランの背景を語れる人間はなかなかいない。たとえば運協で活動していると分主会ではこんなことをやっている、子育て

部会はこんなこと、社協はと、一つのベクトルに向かってコーディネートしてくれることがひとつです。会議に参加する人の意見をいかに吸い上げるか、会議のコーディネート役をやって勉強していることがあると思いますが、私たち市民ではできないです。子育て部会ではワークショップ形式のグループトークで意見交換したところ、皆さんこんなことを考えているんだという意見が出たんですね。この資料にある地域や家族で支えあう仕組みづくりという中に、子育て支援、子ども預かり、紙芝居というのがあるんですが、具体的に出てきていてびっくりしました。いろんな意味でのコーディネート役をやっていることにびっくりしました。もう一つは地域に根差している職員さんがいることがありがたい。ちょうどコミュニティまつりの映像が出ていますが、意見が出てきたときにやってみようとしたときに出店してくれる人がいるかなという話をすると、あの人とあの企業とあの企業と、と言ってくれて声をかけられる。先ほどのほろ酔い勉強会のときも、先生が分主会長なんだよねと。中央病院とコラボできるかも、というハブ的な役割を果たしてくれている。思ったことの実現と拡散、行動につなげることの力を持っている。行動に移す最初の一步のための重要な役割を持っていますので、何年とか終身とかいう、せめて福祉行動計画の計画を基に任期を考えていただけると、私たちもそう動いて、人が急に代わると不安になるので、ぜひ考えていただきたいなと思っています。

市長： 職員がしっかり仕事をしている姿がよく見えてきましたので私としても安心しました。何年ということはありません。大体3年で代わってきたかなと思いますけど、コミュニティに行くとき島流しにあったみたいに今までは職員は思っていた。そんなことないよと、地域のまちづくりの最前線で、取り組んでいるんだと。今の職員は思っていないけれども、そういう中で3年くらいで戻してやらなければというのが正直なところですよ。これは本人がまだまだやるというなら動かしませんから、また本人と面談する中で、本人がやる気があれば5年でも10年でも置きたいと思います。ただ彼もそのうち課長にならなければならない。ここにいると、パートナーシップのまちづくり推進課長がいて彼は係長ということで、課長は別にいるから課長にはなれない。そういう公務員の出世の中で異動はあって、課長になるというとここには入れなくなる。でも彼が課長よりここがいいと言え、それを尊重したいと思います。

市民： 去年初めて懇談会に出席して、一年間茅野に住んでみて感じたことをお話したいんですが、その前に未来予想図なんですけど、今のちが軽んじられるような出来事が起こっています。未来を悲観すると不安になります。逆に地域で未来が楽しくなるようなことをやっていければと思います。先ほどのことに加勢しようと思ったんですが、ずっといてくださいとは言いませんが5年くらいとかあれば、次にバトンタッチする準備が積み上げられると思います。私も茅野の取組を聞くといいことやってるなと思います。かかわりが増えてくると楽しくなってきます。実際この玉川地区コミュニティセンターはよく立ち寄る場所になっていて、気軽に話ができる。先ほど話がありましたが、ワークショップ形式で意見交換し始めたことはとてもいいことです。自分が言ったことを相手が聞いてくれるから、否定しない関係ができているのが

いいと思います。今玉川運協はいい雰囲気です。それとここでの活動は地域活動ですが広く言えば市民活動です。自分にできることは何だろうと考えるとき、こういうことやったら面白んじゃないかな、こんなことやったら困ってる人が楽しめるんじゃないかなという、それ面白いねと、面白がってくれるんですよね。物事って捉え方一つで肯定的にも否定的にもなるので、ポジティブな関係ができていますと思います。市民活動って軸があると思います。その軸が交差すればいいんじゃないかなと思います。大人も子どもも交差する茅野になれば、茅野だけの人口が増えればいいとは思いませんが、茅野っていいねと思えると思います。何かやろう、楽しもうと思えるのは自発だからで、大人としては子どもの自発性を引き出せるようなこと。大人同士でも相手を認めて自発的になれるまちづくりをしていけるとと思います。楽しいことを皆さんと一緒にしていければと思います。

市長： いろいろお話をいただきありがとうございます。自ら動かなければ長続きしないと思いますし、楽しくないですし、そのことをゆいわくも大切にしていきたいと思えますし、それぞれのコミュニティ、運協含めて職員にもしっかり伝えていきたいと思えます。

市民： 諏訪東京理科大学について、一番大事なのは学生をどうやって集めるかということなんです。今出してもらったスライドはすごく良く分かるんですが、来てくれる魅力がないといけないと思えますが教えてもらえますか。

市長： 魅力というといろいろあるかと思えます。やはり一番はどういうことが学べるか、どんな教授がいるかということに尽きるかなと思えます。教授の充実も図っていかなければと思います。もうひとつ公立化する意味があって、理科大は工学部は授業料150万くらいです。公立化すると半額以下に落ちます。これは学生にとって親御さんにとっても大きなインセンティブになるわけで、それが公立化の魅力になると思います。山口にも東京理科大学がありまして4月から公立化しまして、それまで200人の定員で定員割れしていましたが、今年は4000人かな、20倍の大学になった。山口と諏訪の地理的状況は違うと思いますが、それくらいの効果はあるかと思えます。そういった意味で、それが主じゃないですが、学生が入試してくれることを期待しています。ですがどんなことを学べるか、学んでそのあと就職ができないとゴールになりません。どういう企業に就職できるか。一部上場というビックネームの大学は地方大学ではなかなか難しいと思えますが、諏訪圏域の優秀な大学はたくさんあります。そういったところへ就職できることが、地域の大学の持っている意味かなと思えます。理科大で学ぶと地元企業で活躍できるという道筋をつくるのが大きな要因かなと思えます。それと積極的に募集活動もしなければと思います。理科大は今まですべての学校に推薦枠を設けていた。正直入試では受からない子どもも推薦でとって、これは地域貢献ということでやっていたが弊害もありました。一昨年从那それじゃいかんということで、県外からも積極的に募集を始めました。今年は工学部は定員オーバー、北海道、九州からも受験して入学してくれました。あらゆる手

段を講じて学生を集めていきたいと思います。

市民： 市議会議員さんに何か語らないんですかと聞いたらそしたら映像で見えていたから今日は語らないでおこうという話があったんですが、玉川の未来予想図をそれぞれの議員さんにお聞きしたいと思っていたんですが。

市長： この場では議員さんは発言をしないことになっていまして、というのは議員さんは今日も全員協議会と言いまして、意見交換の場で議員さんは発言ができ、まち懇では発言をいただかないことになっています。でも5名の方がいますので、5名と皆さんが語る会をまた開いていただいて、未来予想図が出たが議員さんはどう思ったか意見交換をすれば面白いというかいと思いますので、計画をしてみてください。議員さんもお協力をお願いします。

ありがとうございました。今日は市側の説明が長引きまして、皆さんのお時間が短くなったことをお詫びしまして本年度のまちづくり懇談会を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。